



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

健やかな生活を送るための判断力の育成：ATLスキルを活用した授業実践

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 東京学芸大学附属国際中等教育学校</p> <p>公開日: 2024-04-25</p> <p>キーワード (Ja): ETYP:教育実践, STYP: 中等教育学校, 中1</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 谷口, 善一, 新川, 夕貴, 佐藤, 毅, 國澤, 諒, 川上, 佑美, 馬田, 大輔, 西村, 諭</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校, 東京学芸大学附属中等教育学校</p>
URL	<p>http://hdl.handle.net/2309/0002000375</p>

健やかな生活を送るための判断力の育成

—ATL スキルを活用した授業実践—

Developing the Ability to Make Decisions to Lead a Healthy Life

—Classroom Practice Using ATL Skills—

「第1学年」グループ

保健体育科 谷口 善一

養護教諭 新川 夕貴

保健体育科 佐藤 毅

社会科 國澤 諒

理科 川上 佑美

技術科 馬田 大輔

国語科 西村 諭

1章 校内研究テーマとのつながり

1年研究グループは、主として1学年担任団と養護教諭から構成され、今年度はATLスキルに焦点を当てて協議および授業実践を重ねてきた。11月に実施した授業研究会では、養護教諭による保健指導講話と保健体育科における保健の授業を関連づけ、「健やかな生活」というキーワードのもと、生徒の今に着目しながら、今後のよりよい生活の在り方を考えた。その際に、現状の理解と今後の生活に向けたよりよい判断力の育成のために、IBが示しているATL (Approach to Learning) スキルを手がかりにすることで、日々の生活における意識的な行動を身につけることを目指した。この実践を軸としながら、他教科においてもATLスキルを意識した授業を実践した。

2章

1節 養護教諭による授業実践

1-1 事前アンケートの実施

2023年10月2日～6日にかけて、1年生の生徒に対し「健やかな生活に関するアンケート」を行い、66名の生徒が回答した。睡眠の項目については、自分の睡眠について振り返る項目、「今まで睡眠に関して学んだり自分で調べたりしたことがあるか」・「その内容を実生活に生かしているか」というATLスキルに関連づいた項目、及び「睡眠について困っていることがあるか」、「睡眠について知りたいことがあるか」と自由回答での項目を設けた。

実際の睡眠時間について、翌日学校がある日と翌日が休日の日に分けて質問したところ、平日では74%が23時までには就寝しているが、休日では64%と若干減少していた。また起床時刻については、平日では94%が7時までには起床していたが、休日ではわずか17%まで減少し、7時～8時が42%、8時～12時が39%と、休日に起床時刻が遅くなる傾向が見られた。

睡眠について学んだ経験があると回答した生徒は43%で、そのうちその内容を実生活に生かしている生徒は57%であった。また、睡眠について学んだ経験がないと回答した生徒のうち、睡眠について困っていることがあるかという質問では32%の生徒があると回答し、内容については「一日中

眠い」、「寝つきが悪い」など、日中の眠気を感じることや、夜中にうまく睡眠がとれないものがほとんどであった。

睡眠について知りたいことについての回答では、「適切な睡眠時間を知りたい」、「身長が伸びるためには何時に眠ればいいのか」など、成長期と睡眠時間に関連した質問や、「質の良い睡眠のとり方について」、「布団に入ってすぐに眠る方法」など質の良い睡眠をとるための方法についての質問が多数あった。その他にも、ショートスリーパーについての質問もみられた。

1-2 養護教諭による授業

授業研究会における教科保健の前段授業として、養護教諭による睡眠についての授業を行った。授業は道徳の時間を使い、1年生全員を対象に、健やかな生活を送る自己管理能力を身に付けることや、ATLスキルとの関連性を示し、自分が発揮できるスキルを認識することを目的とした。小児に必要とされる標準睡眠時間と、自分自身の睡眠時間との比較を行い、日中に眠気を感じる場合睡眠が足りていない可能性があることや、睡眠が心身にもたらす影響について、実生活に絡めた正しい知識の習得を行った。また、本校の保健室利用者の睡眠時間と心身の健康状態について様子や傾向を示し、事前アンケートにおける睡眠について困っていることや質問についてもとりあげることで、生徒が睡眠の大切さを自分ごととして捉え、振り返りスキルや自己管理スキルを向上させることを目指した。

授業内で配付したワークシートでは、ほとんどの生徒が自分の生活を見つめなおし、改善しようとする記述をしていた。既に毎日の生活のなかで実践できているよい習慣を記述している生徒もあり、健やかな生活を実生活に落とし込むことができていた。一方で、授業の直後であれば生活習慣を見直すことに前向きであっても、日にちが経つにつれてその気持ちが薄れてしまうことも考えられ、継続していくための工夫について、今後の課題として考えている。また、一部の生徒では日頃から出される課題の多さなどを理由に、投げやりになっているような記述も見られた。彼らに対しては、「一気に変化しようとせず、少しずつ変化させるだけでもよい」など、肯定的なフィードバックを行った。

研究協議会に参加された他校の教員からは、真面目な生徒ほど課題に精いっぱい取り組もうとして睡眠時間が削られている、という本校と同様の状況があることが伺えた。他にも、すべての課題に100点を求めないような声掛けをするなどの工夫をしていることがわかった。

2節 保健体育科による授業

保健の授業では、毎回の授業で取り扱う様々な内容を学習することを通して、健康とは何かということについて繰り返し考えている。これまでの保健の授業で学んだ内容と、事前に行っている養護教諭による授業の内容を手がかりにしながら、より深く健康について考える機会とした。

2-1 既習事項

学習指導要領解説保健体育編(2017)に示されている、「健康な生活と疾病の予防」および「心身の健康と心の発達」について学習している。運動、栄養、睡眠と休養のそれぞれが健康とどのように関わっているかということや、思春期に入り考え方や行動が大人になっていくとともに、ストレス対処について学んできた。

2-2 授業実践と ATL スキルとの関連

ATL スキルは「生徒が生涯にわたって学習を享受するために必要な自己認識やスキルを発達させること」をねらいとして設定されている。本実践においては、そのスキルを意識的に発動することで、習慣化することを期待する。

先述した既習事項について、生徒にとって言葉の意味やそうあるべき姿を想像し、文字によって振り返ることは容易である。しかし大切なことは、学習内容を理解することのみにとどめず、実生活において具体的に活用されることでよりよい生活を送ることができるようにすることである。その際に、どのような ATL スキルの発動が可能か考え、実践することができるようにする。

授業では、これまでの学習内容を手掛かりにしなが、健康の保持増進のために自分の生活をどのように改善することが必要か振り返った。その際、「運動・栄養・休養/睡眠」の視点で改善が必要であるが、実践することができていない項目を挙げさせた。そして、それぞれについて必要とは思っているが実践することができない理由を考えさせた。理想と現実のギャップの中にある課題について、どのような ATL スキルを発動することでその解決につなげることが可能であるか個人で考えをまとめ、他と共有した。

授業での学習内容について、実生活で生かすことが難しい現状を打破するための手がかりとして ATL スキルを活用した。それにより、これまでとは違った視点で課題解決の方法を考えることができた。

3章 各教科による ATL スキルに関連する取り組み

1節 社会科における実践

社会科においては、重点的に伸ばさせたスキルの一つに思考スキルのうちの批判的思考スキル、『反対の、あるいは対立する議論を展開する』がある。探究課題「ネットワークの発達はずべての人の生活を豊かにするか」について論述する際、自分の意見の正当性を高めるために、自分の考えに対立する意見を展開させ、その意見に反論する形で論述させた。それにより議論の要点を特定する力をつけさせることに繋がった。3学期にはこのスキルを活用し、ディベートを行う予定である。

2節 保健体育科における実践

保健体育科の体育分野では、生涯にわたり健やかな生活を送るために必要な能力の育成を目指した。陸上競技・水泳・ハンドボールにおいて、各授業の冒頭では、種目が異なった場合でも意識した ATL スキルを活用することができるように働きかけた。そして、その意識を学習ノートに記す重要性を強調した。また、意識したスキルが教科内でも他教科でも関連することができる可能性について言及することを心掛けた。これらの事から、徐々に授業中に立ち止まって考えたり、今まで以上に充実した内容を学習ノートに表現したりする生徒が増えてきた。

3節 理科における実践

理科では、社会性スキルである協働スキルの伸長を目指した。植物の分類および動物の分類の学習において、探究テーマ「私たちはパターンを見いだすことで、世界をよりよく説明できるか？」を設定し、単元を設計した。自然科学では、植物や動物の特徴にパターンを見いだし、人為的に線引きを行っている。それは、自然世界に線引きそのものが存在しないことを指す。そこで、校内にある植物を観察し、生徒自身がパターンを見いだせるようにすることで、協働的に探究テーマおよび学習内容についての理解を深められるようにした。既存の分類を理解することだけを目的にしな

いことで、唯一の解がない問いに対して、観察を通して、他者の見解や考えに積極的に耳を傾けたり、合意形成をしたりするようすが見て取れた。

4節 技術科における実践

技術科では、ラック製作において、生徒が今後の授業計画と締め切り日を見ながら、各工程の計画を立て、自ら構想・設計したラックを目指して、記録をつけながら随時計画や設計図を修正していく活動を行った。この活動では、自己管理スキルである「締め切りを守る」「テクノロジーを効果的かつ生産的に選択し用いる」等の伸長をねらった。

5節 国語科における実践

国語科では、他教科における学習分野との関連付けや、概念的理解の比較を通して、転移スキルの伸長を目指した。一例として、言葉が「目に見えないもの」「現実にはないもの」を記号に置き換えて表現する働きを持つという、言われてみれば当たり前の事実と、「目に見えない物をモデル化する」という理科の学習とを、それぞれの定期テストにおける問題の出題を通して関連付けを図った。

4章 協議会の報告

Q：生活習慣の向上を実践につなげられるか？

⇒机上の理論を教えることは簡単であるが、生徒に自分事として落とし込ませることは難しいと感じている。ATLスキルを活用したり、今後の変化の動向を確認したりすることが重要かと思う。養護教諭と連携して、大人になった時に生かされる授業ができればいいかなと感じた。

⇒授業の感想ではなく、ATLスキルを活用することで、自分の生活を見つめなおすことができた生徒が数名いた。単に「野菜食べる」ではなく「今こうだから、少し野菜食べよう」と意識してもらえれば。ただ、実践となると家庭の協力も必要で、難しいかもしれない。

⇒今後は生活習慣の向上の内容からは離れるが、ATLスキルを活用したことを思い出し、今後ATLスキルを活用する場面で、自分と向き合った本単元を思い出してほしい。

Developing the Ability to Make Decisions to Lead a Healthy Life

Abstract

In the class workshop held in November, a health guidance lecture by a Yogo teacher and a health class in the health and physical education class were discussed and practiced, and the students' current situation was focused on how to lead better lives in the future under the keyword of "healthy life". We considered how to improve their lives in the future, while focusing on the students' current situation. In doing so, we aimed to develop conscious behavior in daily life by using the ATL (Approach to Learning) skills indicated by the IB as a clue for understanding the current situation and developing better judgment for the future life. While focusing on this practice, we also implemented classes that were aware of ATL skills in other subjects.